

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	流山市立つばさ学園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月		～ 令和7年12月
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	令和7年11月		～ 令和7年12月
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	57人	(回答者数) 48人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	市の施設であり、児童発達支援センターとして、関係機関と連携をとりながら総合的な支援を行うことができる。	・相談支援専門員・心理士等・保育士・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の多職種と連携を図り支援を行っている。	・専門職を含めた支援体制の強化を実施し、より子どもや家庭環境等への多面的・総合的な支援を目指す。
2	子育て支援やインクルーシブ推進の役割を担っている。	・地域の保育所や支援学校との交流会を実施し、ともに学び、成長し合うことで社会性を育んでいる。 ・並行通園先の保育園や幼稚園、医療機関等との情報共有を行いながら、適切な支援を目指す。	・交流会の目的に沿って活動内容を工夫し、交流会先と連携をとりながら充実を図る。 ・地域住民に対して行事の参加等の機会を設け、交流をとおして、当センターの存在感や子どもの社会性の向上を目指す。
3	集団をとおして、子どもの全体発達を考えた支援を継続して行う。(医療的ケア児を含む。) 給食、バス送迎あり。 対象：全体発達の課題のある3～5歳児の子ども	クラス制。先生や友達と一緒に安心できる環境で、基礎運動とあやし・ゆさぶり遊びを支援の柱として、その他様々な経験をおし、全体的な発達を促す。	・障害特性を踏まえたクラス設定をし、発達上のニーズに合わせた支援を行う。 ・クラスとは別に発達段階に合わせたグループ活動を行い、発達の課題に沿った支援を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との支援内容の共有について。	・単独通園児においては、バス送迎を利用しているため、子どもへの対応や接し方について、保護者と職員が共有する機会が少ない。	・保護者が支援の様子を見学したり、参加したりしながら保護者と共有できる機会をつくる。また、連絡アプリの活用についても改善策を検討していく。
2	・施設環境について。	・立地が不便。 ・複合施設であるため、セキュリティに弱さがある。 ・施設の老朽化。	・来所案内についてはパンフレットやアプリ等で引き続き留意していく。 ・多数が利用できる開放部分と、園児が生活する非開放部分を明確に区分する。また、不審者対応や園児の避難誘導などの訓練を実施します。 ・他課と協議をしながら、計画的に施設改修を実施していく。
3			